

指揮 三河 正典

東京藝術大学作曲科および指揮科に学んだのち、パリ・エコール・ノルマル音楽院に留学、満場一致の首席で卒業。作曲を北村昭、佐藤眞、近藤謙、池野成の各氏に、指揮を小林研一郎、松尾葉子、秋山和慶、河地良智、ドミニク・ルイツの各氏に師事。さらに、ムステイスラフ・ロストロポーヴィチの元で研鑽を積む。

第4回ブルー・ダニューブ国際オペラ指揮コンクール第4位、審査員特別賞受賞。ブルガス歌劇場にてヴェルディ「椿姫」を、ルセ歌劇場にてプッチーニ「ラ・ボエーム」、ビゼー「カルメン」を指揮。これまでに日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、京都市交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、サンクトペテルブルグ交響楽団、ロシア・トムスクフィルハーモニー交響楽団、サンクトペテルブルグ・カルペ・ディエム室内管弦楽団、バザルジク交響楽団(ブルガリア)、浙江交響楽団(中国)、コンスタンツァフィルハーモニー管弦楽団(ルーマニア)など、国内外のオーケストラ、オペラを指揮する他、新国立劇場、二期会をはじめとするオペラ公演や、サイトウキネンフェスティバル、アルゲリッチ音楽祭などで合唱指揮者、アシスタントコンダクターとしても活動している。また、東京藝術大学および東京音楽大学、同大学院指揮科、声楽科(オペラ)講師を務め、後進の指導にもあたっている。



ピアノ 中山 拓樹

2000年、札幌市生まれ。6歳より札幌コンセルヴァトワールにて棚瀬美鶴恵氏と宮澤功行氏のもとでピアノを習い始める。2012年、「全日本学生音楽コンクール」小学校の部にて、全国大会1位、併せて野村賞、井口愛子賞、ANA賞を受賞。2014年の同コンクール中学校の部では全国大会2位を受賞した。2017年、カザフスタン・アスタナで開催された「若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」にて、ファイナルでラフマニノフ・パガニーニの主題による狂詩曲をカザフスタン・オーケストラと共演し、第4位に入賞した。その翌年には「Shigeru Kawai 国際コンクール」にて最年少でセミファイナリストとなっている。

演奏活動としては、2012年にKitara大ホールにて宮澤功行氏指揮オーケストラHARUKAとともにハイドンピアノ協奏曲を共演し、翌年のKitara小ホールでのジョイント・リサイタルを皮切りに、ソロ・リサイタルをルーテル・ホール(2015年)、カノン・ホール(2017年)、カワイ札幌コンサートサロン「Chou Chou」(2018年)にて開催している。

海外では2013年にロシア・クリンのチャイコフスキーの家博物館大ホールにおける「クリンの春音楽祭」に出演、2018年にはモスクワのグネーシン音楽大学大ホールにて「チャイコフスキー記念若手音楽祭」に出演し、その翌年にはモスクワにてロシア外務省とチャイコフスキー国際コンクール受賞者連盟共催の「平和の大使」音楽祭に出演した。

本年1月よりモスクワ音楽院附属中央音楽学校に在学し、ナタリア・トゥルーリ氏、アレクセイ・チェルノフ氏、ダニール・ツヴェトコフ氏に師事している。本年3月に北海道札幌南高等学校を卒業、9月にはチャイコフスキー記念モスクワ国立音楽院に進学予定である。



2003年「必要最小限の人数で透明感のある響きをつくる」「バレエやオペラなど舞台芸術にも積極的に取り組む」ことをコンセプトに創立。これまでに14回の演奏会を開催。また、札幌コンセルヴァトワール「ピアノコンチェルトの夕べ」、「PTNA PIANO FESTIVAL」、「情熱の日・芸術祭」等に出演し、多数の才能あふれる若い音楽家と共演。バレエでは、これまで2回のバレエ公演を開催したほか、2013年・2018年に真下教子バレエ研究所40周年・45周年記念公演に出演。オペラでは、LCアルモーニカの公演に出演し、「蝶々夫人」、「ファルスタッフ」、「プッチーニ三部作」、「ラ・ボエーム」、「ホフマン



物語」を演奏した。この他、さっぽろ旭山音楽祭や砂川ニューイヤークンサートに出演するなど、多彩な演奏活動を展開している。

自主公演に著名な音楽家をソリストとして迎えており、ピアニストの佐藤彦大氏、宮澤むじか氏、札幌首席奏者の三瓶佳紀氏、石川祐支氏、福田善亮氏と共演。2011年の第8回演奏会では、安永徹・市野あゆみの両氏と共演し、安永氏をゲストコンサートマスターに迎え、指揮者なしで行ったコンサートは好評を博した。2013年4月、創立10周年に開催した第10回演奏会で札幌市民芸術祭奨励賞を受賞。

